

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/08/15

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.09	0.10
JPY/THB	0.2382	-0.0002
USD/JPY	147.33	0.49
EUR/THB	38.66	0.18
EUR/USD	1.1012	0.0019
USD/CNH	7.147	-0.001
SGD/THB	26.66	0.10
AUD/THB	23.15	-0.07
USD/INR	83.95	-0.02
USD Index	102.57	0.01

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.309	-0.012
10Y (THB)	2.571	-0.016
5Y (USD)	3.680	0.008
10Y (USD)	3.835	-0.008

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,439.4	-27.3
WTI (Oil)	76.98	-1.37
Copper	8,968.5	10.0

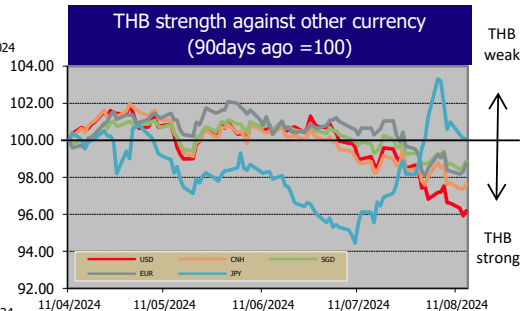
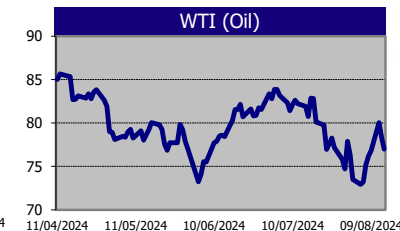
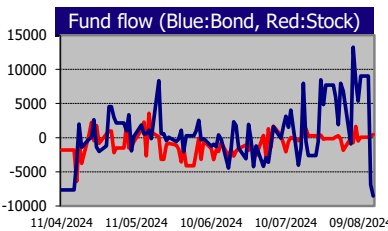
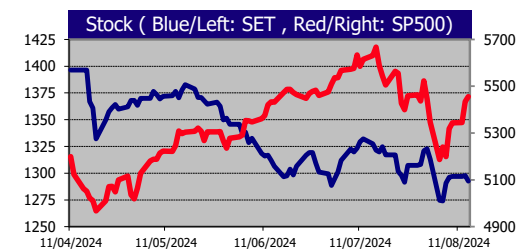
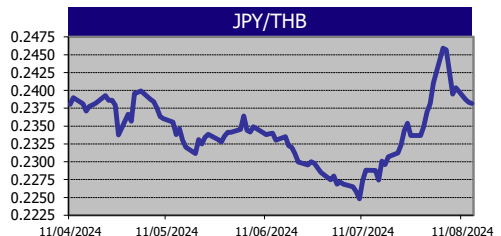
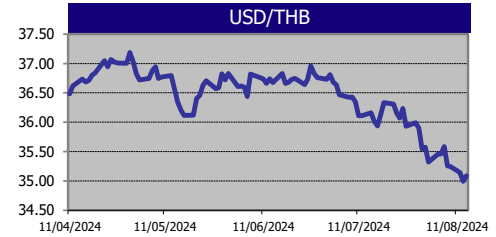
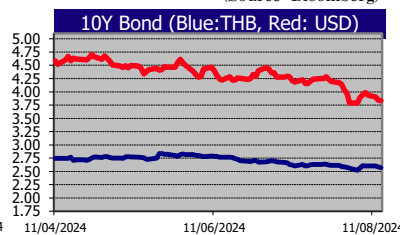
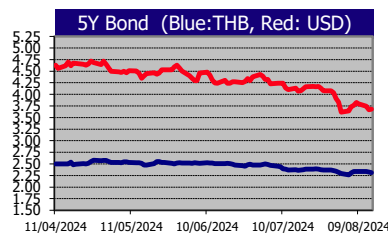
Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,292.69	-5.10
NIKKEI (JP)	36,442.43	209.92
DOW (US)	40,008.39	242.75
S&P500 (US)	5,455.21	20.78
SHCOMP (CN)	2,850.65	-17.29
DAX(GER)	17,885.60	73.55

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	438	265.9
Bond net flow	(8,537)	-1670.1

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

昨日のドルパーツは上昇。35パーツちょうど付近でスタート。前日海外時間の米7月PPI発表後のドル売り基調が継続し、バンコック時間昼過ぎにかけて34パーツ台後半まで下落。一巡後は値を戻す展開となったが、タイ憲法裁判所がセター首相へ解任命令とのヘッドラインを受けて、政治不安からドルパーツは一時35パーツ台前半まで急上昇。ただ、その後は値を戻し、34パーツ台後半で推移。NY時間に発表された米7月CPIはインフレ沈静化継続傾向を示した結果となるも、おおよそ市場予想通り。ドルパーツは一時小幅下落したが、その後は米金利の上昇とともに上昇に転じ、35.09レベルでクローズ。

●ドル円その他

昨日のドル円は上昇。146円台後半でスタート。岸田首相の総裁選不出馬報道やNZ中銀の利下げ実施に反応し、日本株の急落を横目にドル円は146円台前半まで下落。一巡後は値を戻す展開となり、147円台前半のレベルで海外に渡った。NY時間朝方に発表された米7月CPIはおおよそ予想通りの内容となったが、前年同月比での上昇率が約3年半ぶりに3%台を割り込んだことを受けて、ドル売りが優勢となり、ドル円は146円台後半まで下落。その後は地政学リスクが小幅後退したことを受けて、米金利が上昇する展開を横目に147円に値を戻し、147.33レベルでクローズ。

Bangkok Dealer's Eye

昨日のタイにおけるセター首相失職の報は国内でもサプライズとして受け止められ、発表時の為替相場はパーツ売りで反応後、売買交錯する展開となった。取り急ぎ明日16日にも新首相の指名選挙が行われるとの報道もあるが、政局の混迷はマイナス要因ではないことを踏まえれば、当面はパーツにととの重しとなるはずで、状況は注視しておきたい。また、米国時間に注目された米7月CPIは、概ね市場の予想通りの結果となり、9月の米利下げは既定路線となる一方、50bpといった大幅利下げをサポートするほどの内容でもなかった。ゆえにドル円は方向感の出にくい値動きとなった、というのが昨日の一言的な相場説明となるが、今のドル円の状況については、米国で年内利下げが4回分繰り込まれ、円キャリー取引の巻き戻しも概ね完了した中でもなお147円台にいる、とも捉えられる。よって、ここから更に円高が進む展開というのは、円ショート巻き戻しではなく円ロングにベットする投機筋がどれだけいるかにかかっていると言えるのだが、市場で日銀による年内追加利上げを予想する声は既に少数派となっていることを踏まえると、その可能性は高くはなさそうというのが個人的な印象。パーツ、円ともに政情そして市場のボラティリティが落ち着くにつれ、高安どちらのバイアスがかかるかに注目しておきたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.